



2学期始業式

27日(月)に始業式を行いました。校長先生からは、学生時代に学んだ「5つのC」の話がありました。これは順に、condition(状況)、combination(組み合わせ)、control(目標に向かって自分の心と体をコントロールする)、concentration(集中)、confidence(自信)の5つです。最後の「自信」が一番大事であり、自分で努力しなければ何事も身につかないのだから、自分で限界を作らず、妥協せずに目標に向かって(この2学期も)努力して欲しい、と話をされました。

またまだ暑い日が続いているので、今回は初めて、マイク放送による始業式としました。お互いの顔が見えないので少し違和感を感じますが、話は集中して聞くことができましたと思います。何にしろ、有意義な2学期として下さい。



体育祭

今年も秋雨前線が停滞し、週初めからずっと雨の日が続いていましたが、その合間を縫って体育祭を開催することができました。

各競技では熱戦が繰り広げられました。学年対抗とブロック最強の各リレー種目は、いつもどおりに盛り上がりました。学年対抗リレーには、恒例の教員チームも参加。それぞれの年齢に応じた走りを見せてくれました。綱取りも、熱い男(女)の戦いが繰り広げられました。



生徒会種目として今年はいす玉ちゃんを行いました。これは玉入れとイス取りゲームを組み合わせたものですが、わかっているのに競技中に切り替えるのが難しく、合図で慌ててイスを求めて走り回る姿に、観客の笑いを誘っていました。

応援合戦も、毎年盛り上がりです。三つのブロックそれぞれが趣向を凝らしたダンスで、大いに場を盛り上げてくれました。準備や練習は大変だったと思いますが、その成果を遺憾なく発揮してくれました。

最終結果は黄色ブロック(3B・2C・1C)の優勝となりましたが、勝敗に関係なく、どの競技にも懸命に取り組んでいる生徒の姿がとても印象的でした。体育祭を見に来てくださった保護者やOB、地域の方々からも、全力を出し切った姿に、大きな声援や拍手が贈られていました。当日お越し頂いた皆様方、ありがとうございました。



早稲田とのワークショップ

10日(月)に串本町文化センターで、早稲田大学地域連携ワークショップ2018最終報告会があり、早稲田の学生と共に本校CGSローカルウィキ班も参加し、プレゼンを行いました。これは、観光客受入体制の強化策として、串本町の観光コンセプトと、それに基づく旅行プランを提案するものです。



早稲田の学生の発表が先立ち、本校生徒の発表がありました。発表では、まず最初に統計資料を駆使して観光客誘致のための課題を見つけ出し、ターゲットを大阪府～兵庫県の夫婦や男女グループに絞りました。そして、「来やんし串本、海の町」をキャッチコピーに掲げ、具体的な観光ルートを提案してくれました。



特に、地元の利を活かしたローカルな提案や、夜に夫婦と子供が別の旅行メニューに参加して、夫婦が水入らずの時間を過ごすプランなどには、「なるほど」と感心しました。

すべての発表の後、同大学総合研究センターの加藤基樹准教授と田嶋町長から講評を頂きました。ご指導いただいた皆様、調査にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

世界津波サミット

10月31日と11月1日の2日間、和歌山市を中心にして「世界津波の日・高校生サミット」が開かれます。この会議は、防災をテーマにした国内外の高校生による国際交流を通じて、時代を担う防災のリーダーを育成しようとして、2016年から毎年開かれています。第1回の高知県、第2回の沖縄県に続いて和歌山県で開催される今回は、日本から45校135人、海外48カ国から250人の高校生が参加することになっていて、過去最大の規模となります。



このサミットでは、2年生の伊森安美さんと、日高高校3年の中井充歩さんの2人が議長を務めることになっています。2人は8月22日の東京・永田町の衆議院第二議員会館で開かれた記者会見に参加し、その決意を述べて来ましたが、9月12日夕方のテレビ和歌山「6時のわかやま」にも2人で出演しました。番組で伊森さんは、「和歌山の自然の良さや恵みを県外、海外の方々に満喫してほしい」と抱負を述べ、最後に「議長として参加者や国をつなげ、地震、津波などの災害について議論し、共に学び、そしてその情報を積極的に発信していきたいと語ってくれました。



またこの会議にあわせて、10月30日にスタディーツアーが行われます。その一つである、串本・新宮間で行われる鉄學(鉄道防災教育・地域学習列車)列車には、各国から約150名の生徒が参加しますが、そのボランティアとして本校からも、約50名の生徒が参加することになっています。

世界各国の生徒たちと交流を深めると共に、学校全体で、世界津波サミットを盛り上げていきたいと思っています。